

ハウス天井中央部の遮光で盛夏期の小ネギの収量、品質が向上

農業研究部

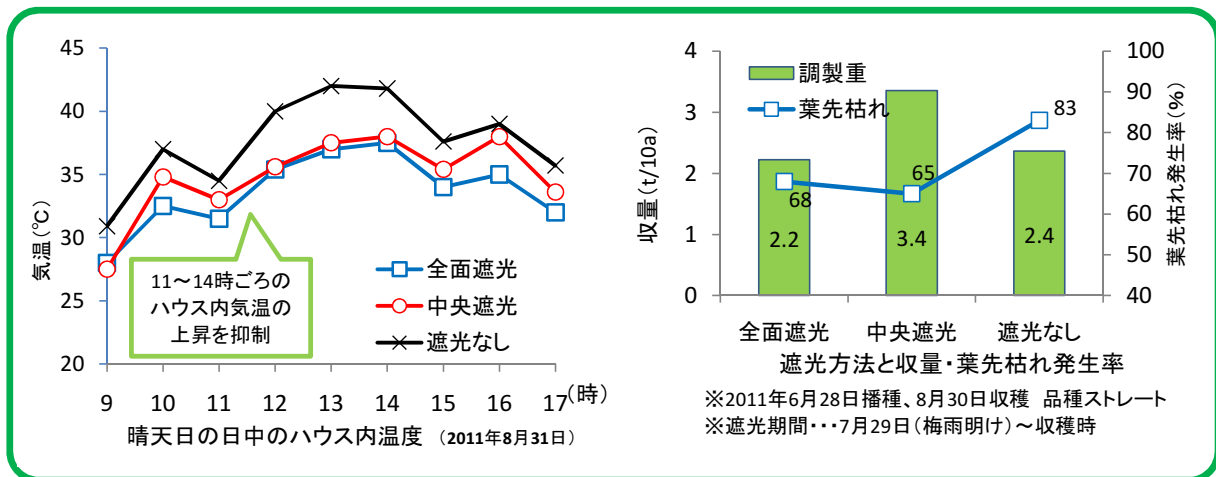
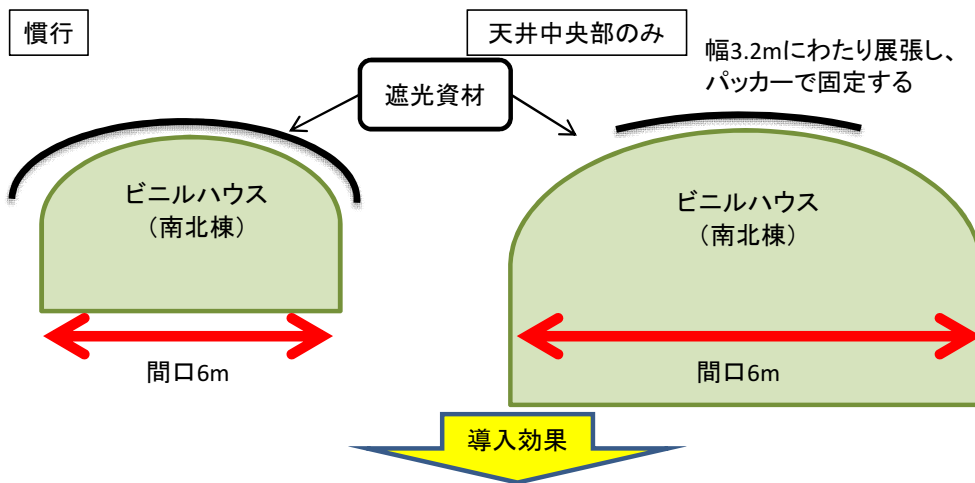
1. 研究の背景

盛夏期の小ネギ土耕栽培では、高温と強い日射によって、ハウス内気温が小ネギの生育適温よりも上昇し、生育の遅れや生理障害が発生する。その対策として‘遮光’があるが、遮光しすぎると徒長や収量の減少を招く。よって、より効果的な遮光を行う必要がある。

2. 研究成果の内容・普及のポイント

これまで、遮光資材はハウス天井部のビニル外側全体に展開していた。それに対して、南北棟間口6mハウスの場合、天井中央部の幅3.2m部分（天井の約半分）に展開することで、温度上昇を抑え、収量、品質をアップすることができた。

用いた遮光資材：ふあふあSL40（銀、表示遮光率38～43%）
 展開する部分：ハウス天井部中央のみ（幅3.2m）パッカーなどで固定
 遮光期間：梅雨明けから収穫期まで



3. 期待される効果

- ・ 夏期の需要期における出荷安定で、市場評価のアップ
- ・ 高単価期の出荷量増加で、農家所得のアップ

4. 担当機関連絡先

農業研究部 ネギ・イモ類チーム
 TEL：0974-28-2080
 住所：豊後大野市三重町赤嶺2328-8